

ライフスタイルセンシングおよびバイタルデータを活用した健康管理/見守りサポート事業

☐ 住む ☒ 癒す ☐ 学ぶ
☐ 動く ☐ 楽しむ ☐ その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

福島県地域医療支援センターの発表によると、福島県全体として、医師数は震災前よりも増加している。一方で、人口10万人当たりの医師数は全国平均と比較して依然として少なく、福島県全体としては全国で42位に位置する状況にある。また、医師も偏在しており、東日本大震災の被災地であり、浜通り地域に属する相双医療圏では人材不足が続く、病院勤務医師数は震災前の7割に減少している（令和4年度時点）。加えて、へき地診療所の医師も高齢化が進んでおり、安定的な医師の確保が課題となっている。そこで、本事業では電力センサを活用したライフスタイルセンシング（電力使用データを活用して体調変化を察知する）を実施することで、遠隔からオンタイムで生活パターンの変化・健康状態の変化の予兆を管理するとともに、適時のバイタルデータ計測により中長期的に健康状態を見守りを行う。これにより、健康状態の変化の早期発見・早期対応が可能となる環境を整備し、医療リソースの偏在の緩和、へき地医療の安定化に貢献する。

②提案の概要

本事業では当社のライフスタイルセンシングと、ウェアラブルデバイス、計測機器等を組み合わせることで、「中長期的な生活パターンの変化の傾向（健康状態の変化の予兆等）」、「特定の時点の詳細な健康状態」を包括的に確認できる環境を整備する。これにより、健康状態の変化の早期発見・早期対応が可能となる環境を整備し、医療リソースの偏在の緩和、へき地医療の安定化に貢献する。

③事業実施に対し必要な要件

- 希望者を募る際の説明会の実施、役場からの案内／募集サポート
- 自治体、医療・介護関係者等、見守り対象に
関係するステークホルダーとの連携、事前確認／協議等の調整の支援

④想定スケジュール

令和7年度（採択後）から令和8年度まで2年間

⑤地元企業等とのマッチング希望

☒ あり ☐ なし

地域における多層的なヘルスケアの実装イメージ

